

第3回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：平成30年3月28日（水）

午前10時から

場所：弥富市 十四山支所 第4会議室
（十四山支所3階）

○議 事

1.開会

事務局 （伊藤）	・ただ今から、平成29年度 第3回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。
-------------	--

2. 弥富市長挨拶

事務局 （伊藤）	・はじめに、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	・桜前線が急スピードで日本列島をかけめぐっている。私ども行政としては新年度4月からスタートするわけだが、多くの自治体は新年度の最初の行事が春まつり（桜まつり）である。弥富市は日程を第一土曜日、日曜日（7日、8日）と決めている。大村知事にもご案内させていただきながら進めているが、葉桜まつりになるのではないかと考えている。 ・今日は皆さま方、大変お忙しい中、また年度末の状況において、第3回の弥富市公共交通活性化協議会にご参加いただき感謝する。 ・平素は交通行政のみならず、行政各般にわたり、大変なお力添えとご協力をいただいていることをこの場を借りて厚く感謝する。 ・きんちゃんバスというのは、私ども市民にとっても「市民の足」として当初からやってきた。様々な形において、各委員からご意見をいただきながらダイヤの改正や停留所の増減等も含めてやってきた。 ・今日ご審議いただく「東部ルートの運行見直しパブリックコメント結果」について、3月議会で市議会議員の方から一般質問があり、非常に関心が高い。私どもとしてもコミュニティバスの運行に対しては、効率と最大限乗客数を拡大していかなくはないと思っている中で、東部ルートの運行見直しについて考えているところである。 ・皆さま方にご審議をいただき、平成30年の4月から実行してまいりたいと思っている。忌憚のないご意見をいただきながら議題を進めていただきたい。よろしくお願いします。
事務局 （伊藤）	・それでは、本日の会議資料の確認を事務局よりさせていただく。
事務局 （久野）	会議資料の確認をする。 事前にお送りした資料として、 ・平成29年度第3回弥富市地域公共交通活性化協議会 次第 ・資料1：東部ルートの運行見直しパブリックコメント結果

	・資料 2：平成 30 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画（案） ・資料 3：平成 30 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算（案） の以上である。不足はないか。
事務局 （伊藤）	・それでは、以降の議事を山崎先生にお願いする。よろしくお願いします。

3.議題

（1）東部ルートの運行見直しパブリックコメント結果について

山崎議長	・この会の議長を仰せつかっている公益財団法人 豊田都市交通研究所の山崎である。よろしくお願い申し上げます。 ・市長からのごあいさつにもあったように桜がずいぶん咲いてきている。今日も昼間すごく暑くなるようだが、朝夕はまだ寒い。今朝、家を出た時はまだ寒かったので薄いコートを羽織って出てきたが、これだけ寒暖差が激しいと体調を崩しがちになるかと思うので、皆さんお体にお気をつけいただきたいと思う。 ・昨日、公共交通活性化協議会の代表として、都市計画のマスタープランの会議に出させていただいた。その会議が昨日、この部屋で同じ時間にあった。その中で、きんちゃんバスがどう位置づけられているかという、弥富は結局、都市化されている部分は近鉄弥富駅の周りだけで、あとは農地、市街化調整区域が広がっているような状況である。市街化調整区域の中に既存集落が点在している状況なので、なかなかバスで人を運ぶというのが難しいところもあるが、都市計画マスタープラン、要はまちづくりの都市計画の基本的な指針の中では、旧集落に住んでいる方々と都市部の交流（集落に住んでいる方々を都市部に運ぶという位置づけ、つなぐ役割を果たすということ）、それ以外には考えられないが、そういった基本方針がプランの中に盛り込まれていく予定である。来年度、このプランは策定されていくが、その中でより利便性を高くしていかなければいけない。だいたいネットワークは出来てきたので、これからはもう少し利便性を考えていく。 ・市長の話の中にもあったが、お金を使えばいくらでも便利なものになるが、そこには財源の限界があるので、そこを上手く考えながらより効率的でそれなりに使いやすいものをこの協議会で議論しながらつくりあげていきたいと思っている。よろしくお願いします。 ・それでは、会議を進めさせていただく。 ・本日の議題は大きく2つある。1つ目は「東部ルートの運行見直しパブリックコメント結果について」である。今年度、住民の方々に調査をして、東部ルートの改変案を検討してきた。事務局案ができて、パブリックコメントを実施した結果を今日報告をしていただく。事務局から説明をお願いします。
事務局 （久野）	○資料説明 ・右肩に資料 1 とある「東部ルートの運行見直しパブリックコメント結果」を基に説明させていただく。

	・東部ルートの実行見直しに対するパブリックコメントは平成 30 年 2 月 1 日から 3 月 2 日までの 30 日間実施した。 ・実施方法は弥富市ホームページや広報への掲載、弥富市役所危機管理課、図書館棟 1 階受付、鍋田支所での閲覧を実施した。 ・その結果、17 名の方から意見を頂いている。 ・また、意見者の居住地を見ると、十四山地区内にお住まいの方やお勤めの方からの意見がほとんどとなっており、バス停を廃止予定としていた五斗山、坂中地からも各 2 名ご意見を頂いている。 ・年齢では、75 歳以上が 9 名と多くなっている。 ・その意見の概要と回答案について説明する。 ・うら面をご覧いただきたい。 ・意見は、10 点、34 件いただいている。 ・意見の内容は、1 点目：「便数をもっと増やしてほしい」が 8 件と最も多くなっている。また、その方法として、車両を増やす、さらなるバス停の削減、現状ルートのままなどがあつた。 ・2 点目：「バス停の廃止はやめてほしい」が 5 件で、利用者がいる、温浴施設が利用できなくなる、代替交通手段がないなどが理由となっている。 ・3 点目：「デマンド運行や uber（ウーバー）のような運行方法も含め、さらなる検討をしてほしい」、4 点目：「バス停をもっと増やしてほしい」がそれぞれ 4 件となっている。 ・5 点目：「十四山支所の開閉庁に合わせたダイヤにしてほしい」が 3 件。 ・6 点目：「新ルートに賛成」、7 点目：「すずきこどもクリニックの多くは車利用のため、バス停は不要」、8 点目：「馬ヶ地は利用者がいないため、バス停は不要」がそれぞれ 1 件となっている。 ・9 点目：「朝夕の通勤時間帯において、十四山支所と弥富駅や佐古木駅を結ぶ直通便がほしい」が 2 件となっている。 ・最後に 10 点目：「車両を小型化したほうがよい」が 5 件となっている。 ・バス停廃止への反対意見は、バス停廃止の影響を受ける地域にお住まいの方からが多くなっている。 ・その他の地域の方からは、さらなる増便やバス停等の要望のほか、運行方法や車両の小型化等に関する提案が多くなっている。 ・また、1 から 9 までの意見については、今回の実行見直しに対する意見となっており、対応・回答案としては、「ご意見をいただいた、五斗山や坂中地の廃止予定バス停においては、廃止になったあとの代替りの移動手段がない利用者がおられるようである。弥富市地域公共交通活性化協議会においても、きんちゃんバスの利便性向上を図りつつも、このような方々の移動手段を確保し、外出機会を創出していく必要があると考えている。」「そこで、五斗山地区や坂中地地区の状況も踏まえ、協議会での議論を通して、現時点で対応可能な、より良い運行方法について改めて検討する。」「また、平成 30 年 10 月にダイヤ改正の実施を予定していたが、継続検討とさせていただく。」としている。
--	--

	・十四山地区住民アンケートや協議会での議論などを通し、今回提示した見直しを検討してきたが、事務局としては、この見直し案のコンセプトを維持しつつ、より良いルートがないか、さらなる検討をし、その実現可能性について、次年度も引き続き議論していきたいと考えている。 ・また、より良い見直しルートの実現が難しい場合には、網形成計画の目標年が平成 32 年と近づいてきていることも踏まえ、大々的な見直しも含めた議論へと繋げていきたいと考えている。 ・事務局として、このような、さらなる検討が必要であるという提案をさせていただいた理由の一つとして、2月 21 日に中部運輸局で開催された、地域公共交通確保維持改善事業に係る第三者委員会における事業評価において、東部ルートの運行改善実施について、「現在の運行改善案のみならず、他の手段も含め検討した方がよい」との指摘があったことを報告させていただく。 ・最後に 10 点目の「車両を小型化したほうがよい」という意見に対しては、「現在使用している車両の更新時に、利用状況等を踏まえ、小型化も含めた適正な車両の大きさについて検討する。」としている。 ・今回の意見については、ホームページに回答を掲載するので、対応と回答の内容についてご議論いただければと思う。 ・以上で議題（1）東部ルートの運行見直しパブリックコメント結果についての説明を終わる。
山崎議長	・パブリックコメントで市民の方からいただいた意見に対する対応・回答案である。協議会としてどんな回答をするかを最終的には承認していただく案件となっている。 ・事務局案としては、意見の1～9まではまとめて3つのポイントを回答。車輛の小型化は比較的軽い話だが、こちらに対しては小型化も含めた適正な車両の大きさは、今後更新時に考えていくという回答である。 ・この回答案に関して、ご意見やご質問等あればお願いする。
竹川委員 （公募委員）	・先ほど説明があった専門用語、今のアンケートの3番、「デマンド運行」とか「uber」について意味がわからないので説明をお願いしたい。
山崎議長	・事務局、お願いする。
事務局 （久野）	・正確ではなくなるが、あくまで簡単に説明させていただく。「デマンド運行」は電話等いろんな方法、ネット等もあるが、自分が乗りたいバスの時刻等、設定してある場合についてはその設定した時刻のこの場所で乗りたいということを連絡する。それに対して、バスが運行する。デマンドについてもいろんな形があり、家の前まで行くものから、今の路線バスのようにバス停はあるが予約をしたところだけ停まるとか、ルートをいろいろ変えておいて予約してあるところだけひろっていくような形のものが「デマンド運行」になる。 ・「uber」は、海外で流行っている。簡単に言うと、そういうアプリがあり、アプリに自分が登録する。これは通常の車である。皆さんの持っている

	普通の車を登録する。登録して、アプリで「今、乗りたい」という人はタクシーのように近くにいる人の一覧が出てくる。一覧に出てきた人を指名して迎えにくる（海外の場合は）。これについては、様々な議論もあり、日本においては白タク（通常の車に人を乗せる）になってしまう。このままの形態では「日本においてはできない」というのは、今のところ事務局は考えている。ただ、uberのシステムというか、アプリを利用して自家用有償運送という形でやられているところはある。自家用有償運送は山間地域や過疎地とか、通常の弥富市が行っている緑ナンバーのバス等の運行までができないようなところにおいて許可をもらってやっているところは1ヶ所ある（NPO等市町村が白ナンバーで運行するという許可がある）。そのような形になる。
山崎議長	・「uber」は固有名詞になるが、ある意味デマンド的なサービス。「デマンド」とは「需要」だから、「オンデマンドサービス」という言葉がいろんな分野である。必要な時に必要なだけというか、公共交通も同じで、乗りたい人がいる時にそういうサービスを行うという形である。 ・弥富でも以前、「デマンドはどうだ」という話を少し検討したことも過去にはある。
杉本委員 (愛知運輸支局)	・パブリックコメントの結果ということで今日、協議をする内容は、回答案を協議することでもいいのか。東部ルートはこれまで活性化協議会で今年度協議をして、一定の方向性で合意がはかられた。パブリックコメントを実施した結果、こういうご意見があったので、東部ルートのこの案については改めて再検討するというご提案を今回受けることになるのか、対応・結果という議題だけでは「どういう協議を今日やるのか」というのがわかりづらい。そのあたり整理してもらいたい。 ・東部ルートについてはいろんな議論をされて、我々が行っている第三者評価委員会の意見もご紹介があったが、どういう形で東部ルートも含めたきんちゃんバスを見直して、最適な公共交通のネットワークを構築するかというところを改めてこの場でしっかり確認をして進めないと、また同じような感じになってくる危険性もある。 ・きんちゃんバスの目的とかは網計画あるいはマスタープラン等にも位置づけられていると思うが、あくまで目的、これは手段であって最終目的ではないので、そういったものをしっかり位置づけた上でやっていく。 ・協議にあたって、こちら側から提案するのみではなく、逆に地域から提案をしてもらおうワークショップのようなものを30年度開催し、地域からどういうバス停でやってほしいといったものを積み合わせながらやらないと、30年度事業計画の中でもアンケートという話があったが、アンケートを基にという話になってもなかなか先に進まないという部分もあるので、逆に言えば地域からしっかりご提案できるようなシステムを30年度構築した方がより前進していく感じが見受けられる。 ・意見概要の中で、増便とか車両という話があった。確かに人員や車両の確保というのは、車両は特に経費の話にもなる。人員も非常に今、バス、

	タクシーそれぞれのモードで要員不足が叫ばれている。一般的な有効求人倍率が通常の一般職だと1.いくつというところだが、バスとかタクシーは2.5～2.7とか高止まりになっている。募集をかけても集まらないという状況もあって、なかなか増便だとか需要に応えられないような状況も生まれている。一方で、政府を挙げて高齢者事故防止とか免許返納の話になると、返納者に対する移動の足の確保というのも非常に重要なことになる。そういったことも含めて全体で、皆さん方が情報共有をして協議していただくのが重要である。
山崎議長	・事務局、お願いする。
事務局 (久野)	・事務局としては、今回のパブリックコメントの対応について協議させていただいて、その中の意見も踏まえた上で、翌年度から議論を始めさせていただきたいと思っている。 ・例えば、運行方法の見直しについても検討はしているが、今回の意見をお聞きした上で、今度の6月にでも出させていただきたいと考えていた。その中に杉本様がおっしゃられた「地元のご意見を」ということも入っている。それを含めて6月で提案させていただこうかと考えているので、ご理解よろしく願います。
山崎議長	・今日のこの場で審議すべきことというのは、あくまでも「回答どうします」ではなくて、回答は協議会からのアウトプットであって、この協議会で今後の方針として、今まで検討してきた改変案をこの回答に基づいてやっていくのか、あるいは回答案の3点目「10月にダイヤ改正の実施を予定していた」ここを目指すのではなく、今の事務局の案としては「もう少し時間をかけて検討していく」ということでよいかどうかをここで審議するということである。 ・高齢者免許返納者への対応、それからアンケートではなく実際にワークショップをやって、地域の声を聞くというやり方も最近いろんなところでやられている。杉本さんがおっしゃられたように、アンケートをやっても同じような結果しか出てこないかもしれないので、ひょっとしたら東部ルートの対象地域に入って意見をいただいて、生の声を聞いた方が今までよりも一歩進んだ検討ができるかもしれない。 ・他にいかがか。前回の協議会で出していただいた改変案はずいぶん考えてくださって、事務局で工夫してくださった改変案が出てきたが、実際に使っていらっしゃる方がいるという状況だとか、運輸局の第三者評価委員会の中である先生から、「運行方法、ここは無理に路線バス（時刻表で定期的に走る路線）にこだわらずに、タクシーを活用することも含めて地域の足を確保していくやり方も検討してはどうか」という意見をいただいた。そこも今回の事務局の判断につながっている。
服部市長	・伊藤さん、大丈夫？お風邪みたいだから席を外した方がいいかもしれない。 ・3月議会でも東部ルートの変更については、一人でも乗ってみえるバス停があるが、そこを今回は廃止して直行型にする中でこういった様々な意

	見が出ている。 ・ 今日、ご承認いただいて、平成30年度から新しい見直し案で運行していく。先ほど国土交通省の方もお話があったように、抜本的な改正、改革をしていかないと東部ルート（十四山地区）は大変難しい課題がいっぱいある。 ・ ルート変更で30年度を運行していくわけだが、並行的に十四山地区の東部ルートを今後どうしていくかをご協議いただきたいと思います。今日はそのようなテーマを持っていないので、次回の活性化協議会で議案として出させていただきたいと思う。 ・ 考え方として、東部ルートを利用される方のほぼ100%と言っていい状態で年配者のみである。バスを利用して駅まで行くとか、あるいは時間に対して「何時までにどこどこに行かなければならない」という利用者はほとんどいない。コミュニティバスにおいて、利便性については考え方が違う運行になっている。私が構想としてもっているのは、コミュニティバスの運行状況から十四山地区を外して、逆に福祉的なバスという位置づけができないかと、これは非常に大胆な意見かもしれない。十四山地区における運行状況そのものを抜本的に改善していくということがないと、なかなか市民の理解は得られないと思うので、次の段階でご協議いただきたい。今回は見直しをした案についてご承認いただいて、30年度から実施していくが、同時並行的にそんなことも考えていかなければならないだろうと思っている。
山崎議長	・ 市長のお考えを語っていただいた。やり方としては、きっといろんなやり方があるかと思う。市長が言われたようなやり方もひとつの方法である。そういったことも含めて、来年度検討していくことかと思う。 ・ 他にいかがか。はい、願います。
竹川委員 (公募委員)	・ 今年の3月に私、手を怪我して車が運転できず、初めてきんちゃんバスを10回ほど利用させていただいた。南部の方から海南病院までの利用だったが、家を8時6分発で診察、リハビリ、会計まで約2時間かかり、南へ帰るバスが10時6分。これを逃すと、今度12時55分。2時間ほど待っていないといけない。仕方がないので妻に迎えに来てよとなった。 ・ 西末広、大谷、栄南小学校、それぞれの年配の方が運転免許証のない70代後半、80代の女性の方が乗られて、杉本クリニック、海南病院とかで降りられて毎日のように利用されている。利用する時間帯の問題もあるが、やはりなくしてならないきんちゃんバスなので、今の2ヶ所のバス停の廃止というの、どうも話を聞くと、かなりここは奥なのでここをなくすと「さあ、どうしよう」ということなので、ぜひ対応・回答の方でバス停の廃止もご検討いただければ幸いと思う。よろしく願います。
佐野委員 (公募委員)	・ ここに書いてある8番に該当する地区に住んでいる。前にもバス停を移動してほしいと申し上げたが、これを見たら「馬ヶ地はバス停がいらない」と。救われたことに、該当している方が馬ヶ地の方でないのがよかったと思っている。むしろ、私はもう一ヶ所、馬ヶ地にバス停を設置してい

	ただきたい。まだ今はいいが、近い将来、このバスを使わないといけない状態になると思う。バスもだが、先ほどお話しされたタクシーも考えていただけたらどうかなと思う。よろしくお願いします。
山崎議長	・事務局、願います。
事務局 (久野)	・こちらの廃止予定のバス停をこのまま廃止で考えていくのということではよろしいか。今、ご意見が出たので、対応として、状況を踏まえて再度検討をさせていただきたいということを今回で決めていただければ、6月以降、30年度にそれも含めて、どこに残してどこを削るのかということも含めて、意見が出ているのは五斗山と坂中地だが、そこをルート変更しないと上手く時間が短縮できない。それも含めてということは事務局で考えているが、ここで承認を受けないと今後、表に出せないという状態をもっている。 ・馬ヶ地のバス停をもう1つほしいという話だが、先ほど市長も言われたとおり、今の弥富市の運行形態としては、路線を幹線としてなるべく早くという方向でもっていつている。バス停を増やしていくという考え方もあるが、今の方向性ではできないので、もしそういった方向性自体を変えることになるなら、32年の網形成計画の見直しの時に大きな方向性の変換をもっていかななくてはいけない。順を追って、これはできるのかできないのかということも踏まえた上でやっていかないとできないのかなとは考えている。
山崎議長	・お二方からいただいたご意見も含めて検討していくということである。 ・他、いかがか。よろしいか。 ・このパブリックコメントを受けて、協議会の回答として、すなわち協議会の方針としては、今まで検討してきた改変案を10月改正とはしないで、継続してじっくり検討していくという方針で、パブリックコメントへの回答はここにあるような形で回答していくということでよいかどうかをご審議いただきたい。 ・それでは、この事務局の案に賛成・ご承認いただける方は挙手をお願いします。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・承認いただいたので、事務局でパブリックコメントの回答の手続きを進めていただきたいと思います。 ・来年度からじっくり検討していくということで準備をお願いします。

3.議題

(2) 平成30年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について

山崎議長	・議題（2）平成30年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について、事務局より資料の説明をお願いします。
事務局 (久野)	○資料説明 ・平成30年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について、資料2、3を基にご説明する。

	○資料 2 説明 ・まず、資料 2、平成 30 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画（案）についてである。 1. 弥富市コミュニティバス運行について、 ・平成 28 年 12 月に改正したダイヤによる運行を継続する。なお、国の「地域公共交通確保維持事業」という補助事業のうち、地域内フィーダー系統補助を活用し運行する予定である。 2. 運行の検証、改善方策の検討について ・「利用者実態調査」や「モニタリング調査」等の必要な調査を実施する。 ・また、運行の検証と改善方策の検討においては、利用者実態調査やモニタリング調査等の結果から運行の検証を行うとともに、改善方策を引き続き検討する。 3. 利用促進策の実施について ・「利用者負担軽減策の実施」に関しては、コミュニティバス利用者の金銭負担の軽減を図り、利用促進を図るため、75 歳以上の方への無料パスカードの配布のほか、シルバーパスや定期券、回数券の販売、乗継券の発行を継続して実施する。 ・「利用促進策の検討・実施」に関しては、コミュニティバスの利用促進を図るため、サイクル&バスライド駐輪場設置を継続するとともに、無料お試し乗車券の配布を実施する。 ・また、その他にも「弥富市地域公共交通網形成計画」において位置づけられた、分かりやすい情報提供による利用促進検討や、認知度向上による利用促進検討などの利用促進策についても引き続き検討する。 4. 平成 31 年度地域公共交通確保維持改善計画の策定について ・平成 28 年 3 月に策定した「弥富市地域公共交通網形成計画」や、「平成 30 年度地域公共交通確保維持改善計画」、平成 29 年度事業（自己）評価結果等を踏まえ、「平成 31 年度地域公共交通確保維持改善計画」を策定する。 5. 協議会の開催について ・予算・決算、運行の検証や改善方策の検討結果等に基づく次年度事業計画の承認等のため協議会を開催する。 ・協議会の開催と作業の概ねのスケジュールを 2 ページ目に示している。協議会は計 4 回を予定しており、作業の進捗にあわせ、適宜開催していく。 ・第 1 回協議会日程にモニタリング調査等書いてあるが、東部ルート of 継続検討をご賛同いただいたので、この中に「東部ルートの検討等」も入ってくることを考えている。 ○資料 3 説明 ・平成 30 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算（案）について資料 3 を基に説明する。
--	--

	【資料に基づき説明】 ・平成 30 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）については、以上となる。
山崎議長	・ただ今ご説明いただいた事業計画（案）、予算（案）に関して、ご意見・ご質問等あればお願いします。 ・はい。杉本さん、お願いします。
杉本委員 （愛知運輸支局）	・先ほどの意見でもお話をさせていただいたが、事業計画の「検証・方策の検討」の中でモニタリング調査等あるが、事務局からも「提案があった場合には地域に入って意見交換をしたい」とあった。そういったところを事業計画にもしっかりと盛り込んでいただいて、ワークショップになるのか地域説明会になるのかわからないが、できるだけ地域の人の意見で案をつくっていく。地域の合意を得て案ができてくるような提案にさせていただくとよい。 ・東部ルート of 継続検討とあったので、それは「運行検証」の中に入ってくる。たぶん6月頃になるかと思う。そういった形で変更ということではよろしいかの確認である。
山崎議長	・事務局、よろしいか。
事務局 （久野）	・今、ご指摘いただいたとおり、先ほどパブリックコメントでご承認いただいたので、モニタリング調査の欄についてワークショップ…表現方法は任せていただきたいが、地元の方の意見を聞かせていただくような文言を入れさせていただきたいと思う。 ・運行の検証と改善方策の検討については、こちら東部ルートの継続検討について、ひと言入れさせていただくような形で表現させていただく。
山崎議長	・ただ気になるのは、住民説明会とかワークショップのようなことをやっていくとなるとそれなりに調査費がかかってくる。コンサルタントさんにお手伝いしてもらっていると思うが、そこにかかってくる費用が少し増えてくるようなところもあるかと思うが、そのあたりいかがか。
事務局 （久野）	・先ほどワークショップというお言葉をいただいたが、ワークショップは予算的に厳しいものがあり、お話させてもらった予算ではできないと思う。もう少し小規模な、地元の例えば、～地区、～地区の地元の方においていってという形だったらできるかと思っている。予算の範囲内でやれることをやる。
山崎議長	・よろしいか。 ・それでは、運行の検証と改善方策のところを何らかの調査をやっていく。通常やっている利用者アンケート、モニタリング調査以外に地元の意見を吸い上げるような調査をやっていく。それを事業計画の中に加える。言葉に関しては事務局一任という形でよろしいかということでご審議いただきたい。 ・それでは事業計画（案）、予算（案）に関してご承認いただける方は挙手

	をお願いします。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・ ご承認いただいた。先ほどの部分を修正していただきたいと思います。よろしくお願いします。

3.議題

(3) その他

山崎議長	・ 議題 (3) その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (伊藤)	・ 特にない。
山崎議長	・ 全体を通して、何かご意見等あればお願いします。
福田委員 (民生委員)	・ 先ほどのモニタリング調査の件だが、高齢の方たちは特にアンケートを書いたりするのは苦手だと思う。弥富もサロン活動が活発になってきている。先ほど市長さんもおっしゃったように高齢者の利用が特に多いということなので、サロンの開催日に出向いていただいて、直に声を聞いていただくのも参考のひとつになるかと思う。あまり利用しない地域とよく利用される地域があると思うので、優先的に多く利用するような地域に出向いていただくのもひとつの案かと思う。
山崎議長	・ 事務局、いかがか。すごく良いこと言っていたように思う。
事務局 (伊藤)	・ 今、おっしゃられたことについて、前向きにサロンに出向きながらご意見をお聞きしたいと考える。
福田委員 (民生委員)	・ 20いくつサロンを開いている。
事務局 (伊藤)	・ 数を絞らせていただいて。
福田委員 (民生委員)	・ はい。東部の方へ利用される人が多いので。特に十四山地区にお願いできればと思う。
事務局 (伊藤)	・ 貴重なご意見、感謝する。
山崎議長	・ まだご発言いただいていない方には、何か一言ずつお願いしたい。公共交通の会議ということで、住民の方々が主役でなければならないというのが私の信念である。 ・ 区長会長の岡村さん、お願いします。
岡村委員 (区長会長)	・ 採算というか、こういうことはお金がかかってくることだから、利用されている方をいかに増やすかということで、全市民が1人1回乗る回数を増やすことをやればかなり改善になってくる。それをどういうふうにやっていくか、我々も正直言って乗ったことがない。私一度、福祉センターまで会議があつて行こうとしたが、非常に時間がかかるということで、どうしても車を使ってしまう。その辺の利便性を今後やっていかないと利用者は増えないと思う。
山崎議長	・ 福寿会会長の三矢さん、お願いします。
三矢委員	・ いろんな意味で、私どもの老人クラブの仲間がお世話になる可能性が大

(福寿会会長)	きい気がする。いずれにしても、空気バスというあだ名がつくぐらい空いていることは確かである。私も一度乗せてもらおうと思いながら、まだ機会を得ていないので、実態はよくわからない。自分もいずれそういう段階になるのではないかという気がする。 ・弥富の地域性を考えると、場所にもよるが、いわゆる都会的なところと田舎的なところと半々ぐらいの状態である。都会的な一方的な考え方でやっても割り切れないし、田舎的な考え方で計画してもいろんな意味で割り切れないところが残るようなそういう難しい地域性もあるような気がする。いろんな意味でモニタリングや調査していただいたりして、事務局の皆さま方は大変だっただろうと思うが、これからもよろしくお願いする。実質的な運行になるようにご計画いただくことを望んでいる。
山崎議長	・私から感想だが、先ほど岡村さんが言われた「1人1回乗りましょう」運動は、一度やってみるとおもしろいと思う。弥富は利用促進で無料券の配布を5～6年続けているが、それとあわせてでもいいが、1人1回乗ってみようというキャッチフレーズでPRしていくというのもいいかもしれない。年間で4万人利用者が増える。 ・他の方で、よろしいか。
福田委員 (民生委員)	・私たち民生委員会は年2回広報誌を発行することになっているが、次の時には弥富市内のサロンをやっているところを地図上に網羅して、どこのバス停で降りたらいいよというのをそこに入れていただくよう企画する。サロン活動へみんなに移動してもらって、自分のところだけでなくいろんなところへ出向いていただくようにという啓蒙活動させていただく。よろしく願います。
山崎議長	・それはすごく良いことである。そういう情報があると、1回使ってみようかとなる。 ・議題はこれですべてである。 ・事務局にマイクを返す。
事務局 (伊藤)	・今回にて平成29年度最後の協議会となる。 ・委員の皆さまには、今年度計3回の協議会にご協力いただき、感謝する。 ・来年度も本協議会については継続していくので、引き続きよろしくお願いする。 ・次回の平成30年度の第1回協議会は6月頃を予定している。日程が決まり次第、ご案内をさせていただく。 ・以上をもって、平成29年度第3回弥富市地域公共交通活性化協議会を終わらせていただく。今後ともご協力いただくようお願い申し上げます。
	以上